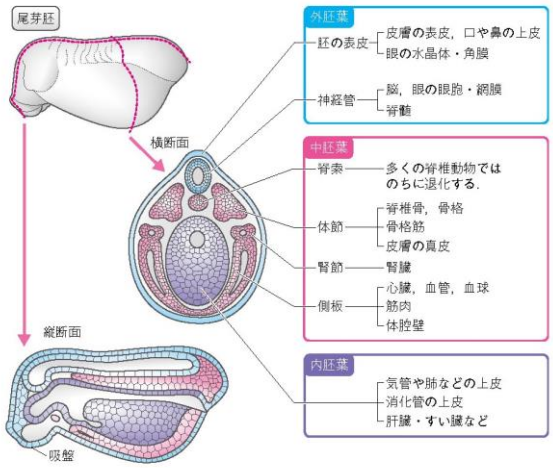
『新しい教養のための生物学』正誤表

（赤坂甲治 著，裳華房 刊）

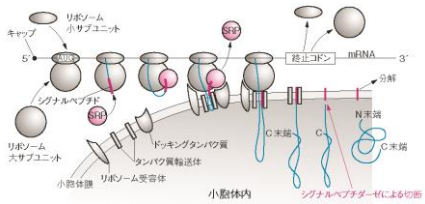
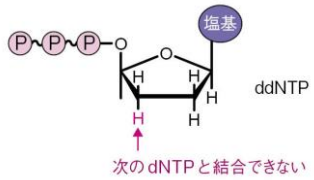
（2023/7/27　現在）

次版にて修正予定　（誤→正）

頁	行など	誤（修正箇所）	正（修正・加筆方法）
8	参考 1.1 5 行目	RNA の塩基はウラシル(U), チミン(T), グアニン（G），シトシン（C）である。	RNA の塩基はアデニン（A），ウラシル（U），グアニン（G），シトシン（C）である。
77	下から 6 行目	終始コドン	終止コドン
79	参考 9.7 5 行目	(trans-activationg RNA)	(trans-activating RNA)
91	図 11･5	以下の引出線の先を修正する。 「脊索」「体節」「腎節」	 図 11･5　外内中胚葉から形成される細胞と組織
122	3 行目	終始コドン	終止コドン

第 2 版 1 刷（2019 年 4 月発行）にて修正済み　（誤→正）

頁	行など	誤（修正箇所）	正（修正・加筆）／　備考など
12	第 1 段落	側鎖が小さく，極性をもたないアミノ酸が連続している部分では，ペプチド結合の N 原子と，そこから 4 番目のアミノ酸のカルボニル基との間で水素結合が生じる。その結果，右巻きのらせん構造が形成される。このらせん構造を **α−ヘリックス**という。α-ヘリックスはスプリングの様に安定な立体構造となる。平行に並んだポリペプチド間で規則的な水素結合が生じると，安定なシート状の立体構造になる。このシート状の構造を **β−シート**という。α-ヘリックスと β-シートを**二次構造**という。	ペプチド結合の N-H の水素原子（H）と，そこから 4 番目のアミノ酸のカルボニル基の酸素原子（O）との間で分子内水素結合が生じ，その結果，右巻きに 1 回転が 3.6 アミノ酸のピッチでらせん構造が形成される．このらせん構造を **α−ヘリックス**という。α-ヘリックスはスプリングの様に安定な立体構造となる。平行に並んだポリペプチド間で規則的な水素結合が生じると，安定なシート状の立体構造になる。このシート状の構造を **β−シート**という。α-ヘリックスと β-シートを**二次構造**という。
28	図 5･6 の右端（上下中央）	2 ATP と 2 ADP の位置	逆にして，2 ADP→2 ATP の流れにする。

66	図 8･16	右図のように修正	 図 8･16　小胞体へのタンパク質の輸送
72	図 9･1	*Hin*d Ⅲの切断部位	*Hin*d Ⅲ 5′……A AGCTT……3′ 3′……TTCGA A……5′
73	図 9･3 の図説明	プライマーを結合させる 55℃，DNA ポリメラーゼを作用させる 72℃を繰り返すと，	プライマーを結合させ DNA ポリメラーゼによる合成反応を開始させる 55℃，DNA ポリメラーゼの最適温度の 72℃を繰り返すと，
74	図 9･4 の ddNTP の図	右図のように修正